

「地域の魅力、共に発信」

高麗宮司が講話

飯能市倫理法人会(中川律子会長)の経営者モーニングセミナーが2日、ヘリテイジ飯能で開かれ、高麗神社(旧高市新堀)の高麗文康宮司が「高麗郡建郡1300年と歴史的背景」と題して講話を行った。「そもそも高麗とは何なのか」と切り出した高麗宮司は、高麗の名の始源となる高句麗や高麗郡の歴史、平成28年の建郡1300年の意義について語った。

高麗郡の歴史紐解く

「高麗という名の始源は、716年に置かれ1896年に廃止となった高麗郡にあり、その範囲は旧高市、飯能市、鶴ヶ島市の全域、川越市、入間市、狭山市の一部に及んでいた。こうし

た話をすると、少し前までは、本町かい？」と聞き返された。自分たちが住んでいる場所が高麗郡だったというところを知っている方はほとんどなかった。」
高麗宮司は高麗郡の名

称の由来となった高麗人(こまひと)、その相国とな

倫理法人会モーニングセミナー

高麗が滅亡する668年の2年前に高句麗から日本へやってきた外交使節が祖国を失って日本に留まり、自らの渡来人とともに、先進的な技術を活かしてその後、の同づくりに力を尽くしたことや、大和朝廷の律令制度の地方版モデルとしてこの地に高麗郡が置かれ、1799人もの高麗人が移り住み、朝廷の支援と周辺に住んでいた豪族の期待を受けて未開の地を開拓したなど解説。

2年後に迫った高麗郡建郡1300年へ向け、「なぜ、1300年前のことを知り起こさなければならぬのか。それは、この土地を開いたのが高麗人だったという一点に戻る。彼らは国の滅亡という憂き目を見ながら海を渡って日本を訪れ、都から東国へと大きく移動しながら、未開のこの地へ辿り着いた。我々の先人はフロンティア精神を持った人々であり、昔儀に打ち勝つDNAを持っていたのではないか。かつて高麗人たちがこの地域を作ったことを根拠に、高麗郡という歴史的な共通性を分母にして改めて広域の地域づくりをし、一踏になって外へ発信することができないのではないか。高麗郡建郡1300年はその契機であり、この土地に住んでいる方々にとって重要な祝祭であるべきと考えている」

と述べ、「主役は地域の皆様。ぜひ深い関心を持って頂き、立ち上がって頂けたら」と呼びかけた。

経営者らが集う倫理法人会は「企業に倫理を、職場に心を、家庭に愛を」をスローガンに活動。モーニングセミナーは各界で活躍する人を講師に招き、毎週火曜日の朝6時半から開かれている。



モーニングセミナーで講話を行う高麗宮司